

まえがき

日本貿易振興機構アジア経済研究所では、2006年4月から5年間にわたる重点研究「中国総合展望研究」が実施されている。その一部として組織された「中国の政治的安定性の課題—リスク要因と政治体制の変容」研究会（期間は2006年4月から2008年3月まで）の最終成果をまとめたものが本書である。

1978年12月の中国共産党第11期中央委員会第3回全体会議において、改革・開放が打ち出されてから、2008年に30周年を迎えた。改革・開放は、中国の経済、社会に多大な影響を与え、それまでの様相を一変させた。

他方、改革・開放は中国政治にも少なからぬ影響を与えたものの、中国政治の最大の特徴である中国共産党による一党支配という政治体制が、中華人民共和国成立から60年近く維持されていることも事実である。

現在の中国政治研究の関心の1つは、中国共産党による一党支配の維持と改革・開放以降の中国政治の変化をどうとらえるかという点にある。ここでは、中国共産党が変容しているという見方はほぼ共有されているものの、その変容のとらえ方をめぐってはさまざまな枠組みが提示されている。本書もそうした昨今の中国政治研究の流れの中で、中国共産党の変容に対する見方を提示することを試みたものである。各方面からのご意見、ご批判をいただければ幸いである。

2年間の研究会では、多くの方々にご協力いただいた。感謝の気持ちを込めて、ここに紹介させていただきたい。まず、データ収集、現地調査などで、馬敬仁（深圳大学）、白智立（北京大学）、臧志軍（復旦大学）、于鉄軍（北京大学）の各氏に、大変お世話になった。厚くお礼申し上げる。また、研究会に外部講師としてお越しいただき、貴重なお話をさせていただいた天児慧（早稲田大学）、興梶一郎（神田外語大学）の両氏に心よりお礼申し上げる。さらに、すべての初稿に目を通し、コメントをしていただ

いたアジ研内部，そして外部の査読者の方々にも心よりお礼申し上げます。

2008年10月

編者